

学校生活で「気づき」「考え」「実行する」 を合言葉に

荒川区立尾久八幡中学校

- 住所：荒川区西尾久3-14-1 ●連絡先：03-3893-7776
- 学校長：栗原 満 ●担当者：畑 真由美、片 智生
- 学校紹介：「文武両道・礼節・品格」を貫き、主体的に活動することができる生徒を育成する。
- 学校規模：13学級470名

活動の種類	活動の単位	活動期間	教育課程上の主な位置づけ
健康・安全、奉仕	全校	通年	総合的な学習の時間、 特別活動

活動のねらい

本校では特色ある教育活動の一環として「JRC活動」を掲げている。青少年赤十字に全校加盟し、JRC活動を学校全体で行うことで、「気づき」「考え」「実行する」を日常化し、自主性を育てることがねらいである。

具体的な活動内容

1. 青少年赤十字加盟登録式

毎年4月初旬に全校生徒を対象に行う学校行事である。赤十字の歴史や実践目標について学ぶ。

ねらい

生徒一人一人が人権尊重の精神をもち、青少年赤十字の一員としての自覚を新たにす。

式次第

- 開式のことば・・・司会
- 学校長のことば・・・学校長
- 誓いのことば・・・生徒会会長
- 本年度の活動計画・・・JRC委員会委員長
- JRCバッジの受領・・・第1学年代表生徒
- 来賓あいさつ
- 校歌斉唱
- 閉式のことば・・・司会



誓いのことばを宣誓する生徒会会長

2. ゴミ(5・3)の日活動

JRC委員会が主体で行う清掃活動である。毎月3と5のつく日の朝、委員会の生徒が学校付近のゴミ拾いを行う。また、学校へ向かう途中の生徒に声かけを行い、一人一つ以上ゴミを拾いながら登校する。

3. クリーンキャンペーン

学期に一度、全校生徒で行う地域清掃である。日頃お世話になっている地域への感謝を、ゴミ拾いと元気のよいあいさつで伝える。また、学校へ戻ってきたらJRC委員会の生徒を中心にゴミの分別を行い、リサイクルや資源など、環境問題への意識を高める。

4. 三角巾を使った応急処置法

7月中旬、総合的な学習の時間を2時間割り当て、学年ごとに三角巾を用いた応急処置法を体験的に学ぶ。内容は三角巾のたたみ方、本結び、額・上肢・足首・下腿の怪我の処置などである。日本赤十字社に講師を依頼し、学年があがるにつれ応急処置法の種類を増やす指導を行っている。また、緊急時や災害時の怪我人への対応について講話を実践している。



三角巾を用いて上肢の怪我を処置する生徒

5. 赤い羽根共同募金

10月にJRC委員会が行う募金活動である。全校朝礼とポスターで呼びかけを行い、約一週間、正門で募金箱を持った委員会の生徒が声かけを行う。

6. 高齢者への年賀状作成

12月にJRC委員会と特別支援学級の生徒が協力して行う活動である。レイアウトを一緒に考えながら工夫し、高齢者への年賀状作成を行う。

7. 心肺蘇生法

3月上旬に行う心肺蘇生法の講習で、中学二年の有志の生徒が、下級生である一年生に教える。一年生7～8人のグループに対して、二年生は2人ずつ指導にあたる。有志の二年生については事前に練習を行い、下級生への模範となることで自信をつけることができる。また、異年齢による集団を形成することで緊張感や信頼感が生まれる。

8. 荒川区リーダーシップトレーニングセンター

夏休みに荒川区内の中学校から集まった有志の生徒たちが参加する宿泊学習である。区が所有する施設（山梨県北杜市清里）で、初対面の生徒たちが三泊四日の生活を共にする。その間、グループワークや心肺蘇生法講習、緊急炊き出し訓練や地域清掃など様々な体験学習を行い、リーダー性や自主性を養う。

また、観光地である清里高原の清掃活動は、地域の方々から多くの支持を得ている。



トレセンでグループワークに取り組む生徒たち

活動のポイント

- 本校では生徒会活動の一つにJRC委員会がある。委員会生徒が主体となってJRC活動を企画・運営することで、自主性を育てている。
- 本校では学校組織の一つにJRC指導委員会がある。校内の活動だけでなく、区全体でJRC活動の活性化を図り、トレセンなどで他校との連携を強めている。
- 生徒だけでなく教員も「気づき、考え、実行する」を合言葉に学校生活を送っている。

活動後の変化

荒川区のトレセンに参加した生徒の作文

①「一歩踏み出す勇気」

私は今年でトレセン二回目の参加となった。H. R（ホームルーム）では三年生がひっぱってくれたのでまともだったが、私は何も意見を出すことが出来なかった。担当となった生活V. S（ボランティアサービス）でも同じで、V. S長が決まらず、初参加の二年生の人になってくれた。私は口ではトレセン参加二回目と言っていたが、実際何も出来なくて本当に悔しかった。私にはその時、トレセンに自分が来ていることの自覚がもてていなかった。次の日、私は昨日のような失敗は絶対にしないと決めた。H. Rでもしっかり自分の意見を言い、V. SではV. S長を一生懸命支えた。緊急炊き出し訓練でも自分のすべきことを考え、実行することが出来た。私は、昨日とは違う自分がいることを実感していた。その日のGWT（グループワークトレーニング）では、仲間と助け合って、最後まで取り組んだことで一位をとることが出来て、協力する大切さも感じた。私は一歩踏み出すにはすごく勇気があるけれど、その一歩を踏み出した時、今までの自分とは違う、成長した自分に会えるのだということを学んだ。それと同時に、仲間という大切な存在がいるのだということ、トレセンを通して知ることができた。来年もトレセンに参加して、また違った自分を見つきたい。

②「この経験が私の未来につながる」

今回のトレセンに私が参加し、印象に残ったことが2つあります。まず1つ目は「緊急炊き出し訓練」です。緊急炊き出し訓練では、仲間と協力することや、気づき考え実行するということが大切だということを学びました。同じH. Rのメンバーは学年やクラスが違い、あまり話したことがなく交流もほとんどありませんでした。しかし、この訓練で絆が深まったことを感じられてとても嬉しかったです。2つ目はアンリーデュナンの生涯です。私は彼の生涯にホームレスの時代があったことに驚きました。彼は国際赤十字という素晴らしい組織を作りましたが、自分で事業を興し失敗したことで、国外追放という有罪判決になってしまったそうです。そこから私が学んだことは、たとえ一度失敗しても世界の人々に貢献できるということです。自分のためではなく、人のために自らの人生を費やすことができることは素晴らしいことだと思います。私は今後の生活で、トレセンで学んだボランティア精神を活かしていきたいです。

今後の課題

本校の教育課程におけるJRC活動の位置づけが曖昧な部分があり、活動時間の確保が難しくなっている。また、教員の異動により担当への引き継ぎがスムーズに行えていない。